

双葉東小学校 学校自己評価書		平成20年1月14日(木)作成
学校長	: 川口 勲	記述者職名 : 教頭 太田 充
本年度の学校教育目標 「かしこく・やさしく・すこやかに」 ・自ら学び、自ら考え 行動する子ども ・健康で安全な生活をめざす子ども ・人を愛し、自然を愛する子ども ・困難なこともりこえる子ども		
本年度の学校経営目標・方針 ○ 生きる力の育成(知・徳・体) ー心の教育の充実ー ○ 学校・家庭・地域の連携強化 ー開かれた学校づくりー ○ 教師こそ児童にとっての最大の教育環境 ー教師の親和性の高揚ー		
I 全体評価 今回の自己評価結果は、第1回自己評価よりさらによい結果であった。項目I「学校教育目標に関して」、項目II「学校経営・組織について」、項目III「学習指導について」、項目IV「生徒指導に関して」、項目V「地域との連携について」、項目VI「学校の特色に関して」の全て項目において高い結果であった。各項目の具体的な評価内容(指標)の54項目をみても、1項目に否定的回答があるのみで、そのほかは全て肯定的評価であった。昨年度の結果や今年度の第1回目の結果より高い数値ポイントであった。過去の自己評価結果を真摯に受け止め、検討し、改善に努めてきた成果のあらわれと思われる。		
II 各項目ごとの評価		
項目I「学校教育目標に関して」		
自己評価結果		改善策
達成状況	主な意見	
・学校教育目標に関する7項目中7項目全てが肯定的評価100%であった。学校教育目標が職員に理解され、具現化に向けた取り組みが進められているといえる。また、日常的にPDCAサイクルに基づいた学校教育目標具現化を意識した教育実践活動が実施されているといえる。	・教育活動計画に基づき、実態に即した学年学級経営に努めなければならないと思う。	・今後さらにPDCAサイクルについて理解を深めるとともに、職員会議や校内研究会等の機会を有効に利用し、全教職員でPDCAサイクルの視点から教育活動全般を見直し、取り組んでいきたい。
項目II「学校経営・組織について」		
自己評価結果		改善策
達成状況	主な意見	
・学校経営・組織に関する項目15項目中13項目が100%、1項目が96.6%と高い評価結果であった。設問⑮の項目の34.5%の無効は、設問に該当しない教職員の無回答が無効となったためであり、該当教職員は全て肯定的評価となっている。 ・全教職員が学校教育目標や学校経営方針を理解し、学校経営及び運営意識を持ち、教育実践活動に取り組んだ成果といえる。また教職員の個性や特性を生かした校務分掌も学校経営及び運営に効果的に機能しているといえる。 ・設問⑭の福利厚生及び健康管理の項目で、肯定的評価が96.6%であったが、3.4%の否定的評価があった。これは年々多忙化する学校現場の現状によるものと推測する。	・3学期に巡回健康相談等の健康管理の取り組みが予定されている。	・重要情報管理台帳作成を通し、情報セキュリティについて教職員で理解を深めたが、今後も一人ひとりが常に危機管理意識を持ち、リスクマネジメント、クライシスマネジメントの充実を図っていきたい。また、子どもや学校を事件・事故・災害からどう守るか、危険回避と危機への備え、危機発生時及び事後対応など、一つ一つケースを具体的に考えていかなければならない。 ・校務の多忙化から、教職員を取り巻く心と体の健康状況には厳しいものがある。引き続き養護教諭の健康指導、厚生部の元気回復事業等を計画し、実施していきたい。

項目Ⅲ「学習指導について」		
自己評価結果		改善策
達成状況	主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する項目 8 項目中 8 項目全てが 100%の肯定的評価であった。前回は 3,4%と数値は低いものの、3 項目に否定的回答があったが、今回はすべて肯定的評価であった。 ・設問③の個に配慮した授業の実施の項目は、学習指導の項目の中で、最も伸びた評価結果であった。全教職員が子ども一人ひとりを大切にしたい指導の結果と思われる。 ・学習指導の全項目が肯定的評価となったのは、基礎基本の定着や個に応じた授業づくりをめざした、日常的で地道な教育研究及び実践活動の取り組みの成果と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に楽しい授業、わかる授業の創造に努めなければならない。 ・授業を学校の中心にしなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語力、言語力の充実、各教科等を貫く重要な力である。特に知的活動の基盤として、コミュニケーション能力や感性、情緒までも育むものとする。これからは朝読書等の活動を継続しながら、国語力、言語力の育成に努めていきたい。授業を子どもとの最大のコミュニケーションの場とし、一時間一時間の授業を充実させるとともに、教材教具、指導法等の工夫等も積極的に図っていきたい。
項目Ⅳ「生徒指導について」		
自己評価結果		改善策
達成状況	主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する項目 7 項目中 7 項目全てが、86,2%～100%の肯定的評価であった。 ・前回低かった生き方教育（進路指導）の項目は、今回は自己評価実施前に設問に対するとらえ方を教職員で共通理解を図ったため向上したものと考えられる。 ・設問①の対児童とのコミュニケーションの項目、設問②の規範意識の指導の項目、設問③の保護者との連携の項目は、前回より 10%以上の肯定的評価であった。 ・設問⑨の子どもの安全の項目は、生徒指導の項目の中で、前回に引き続き最も高い肯定的評価であった。学校経営・組織の項とも関係するが、教職員の危機管理意識は社会情勢を反映して高い評価結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解の方法や教育相談的手法が学校現場にますます必要になってくる状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとやまなし道徳教育推進事業指定校として、道徳の授業の充実を図るとともに、子どもや子どもを取り巻く状況の変化から、人間関係の形成や、基本的な生活習慣や規範意識、生命尊重等の指導の充実を図っていきたい。 ・子どもに居場所のある学校にしていくために、子ども一人ひとりを大切にしながら、子どもの心に寄り添い、良好な親和関係の構築にも取り組んでいきたい。良好な人間関係に支えられた、学校生活満足度の高揚に努めていきたい。
項目Ⅴ「地域との連携について」		
自己評価結果		改善策
達成状況	主な意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携に関する項目 10 項目全てが 93,1～100%の肯定的評価で、うち 3 項目は 100%である。前回は 3 項目に 3,4%～6,9%の否定的回答があったが、今回は全項目に全く否定的評価がなかった。 ・朗読ボランティア、ゲストティーチャーなど外部講師や地域人材の活用の結果と思われる。 ・PTA 全国表彰を受賞したこともあり、保護者の PTA への協力体制も高い評価で、設問④の PTA 活動への参加の項目は、前回からの伸び率が、地域との連携の項目で最も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域、家庭の連携が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの学校教育の充実には、家庭・地域との連携なしには考えられない。学校は、学年・学級・委員会通信等の各種のたよりや通信で、学校の情報を積極的に発信していきたい。また、今後もさらに学習ボランティアやゲストティーチャー等の外部講師や地域人材を、学校の教育活動に積極的に取り入れていきたい。

項目VI「学校の特色に関して」		
自己評価結果		改善策
達成状況	主な意見	
<p>・学校の特色に関する7項目全てが100%の肯定的評価であった。保護者・児童・教職員によるあいさつ声かけ運動、愛のパトロール、朝の読書、牛乳パックリサイクル、児童会の世界に笑顔ボランティアや笑って遊んで東っ子、あいさつスマイル運動、各委員会による独自の取り組みのミニミニコンサート・そうじコンクール、フットサル大会・ドッジボール大会、学習ボランティアの活用等の学校独自の取り組みの実績からの結果であろう。また、ふるさとやまなし道徳教育推進事業指定校としてのさまざまな取り組みも、学校の特色になっているものと思う。</p>	<p>・ノーチャイムに向けた日課を考慮して進めなければならない。</p>	<p>・学校や子どもの実態等の十分にアセスメントする中で、学校教育目標、学校経営方針等を受け、保護者のとの協力・協働体制のもと、今後も継続し、学校の独自性や特色ある取り組みを進めていきたい。</p>
<p>III まとめ</p> <p>自己評価の項目I「学校教育目標に関して」、項目II「学校経営・組織について」、項目III「学習指導について」、項目IV「生徒指導に関して」、項目V「地域との連携について」、項目VI「学校の特色に関して」の全ての項目においてよい結果であった。</p> <p>昨年度、前回の自己評価結果と比較しても、数値的にも内容的にも、たいへんよい結果であった。これは学校評価システム時から今回までの自己評価結果や学校関係者評価委員会での意見等を真摯に受け止め、積極的に全職員体制で学校改善を図ったからであると思う。</p> <p>しかし、具体的自己評価内容（指標）54項目の一つ一つの結果を細かく分析し、なぜ高かったのか、なぜ低かったのか、数値が意味するものは何なのか等、常に学校改善の視点で教育実践活動に当たらなければならないものと思う。</p> <p>自己評価と同様に児童や保護者アンケートも、それぞれのアンケート結果を一つ一つ細かく分析し、各アンケート結果を有機的に連動させ、総合的な視点を持って学校改善に努めていく必要があるものと考えます。</p>		
<p>IV 有識者（山梨県立大学 堀井 啓幸 教授）からの提言</p> <p>有識者の報告書から、本校の取り組みの成果と課題をみる事ができた。その内容は前回の報告書と同様に以下の5項目であった。</p> <p>大項目1「学校教育計画・学校評価の現状」として学校経営方針と実際の学校経営状況、施設設備の状況、自己評価の実施と状況、外部評価の実施状況、学校評価の実施状況、学校評価及び学校に関する情報公開の状況。</p> <p>大項目2「学校経営・組織の状況」として、教職員の意欲・資質及びその向上に向けた取組状況、教育課程の状況、各教科の指導状況、特色ある学校づくりの状況、特別支援教育の状況、保健管理状況、個人情報管理の状況、安全管理・危機管理の状況。</p> <p>大項目3「児童生徒の学習状況・生徒指導状況」として、児童生徒の学力・体力の状況、児童生徒の出席状況、児童生徒の全人格的発達の状況、生徒指導・進路指導の状況、学校に対する児童生徒の意見・要望等の状況、</p> <p>大項目4「保護者、地域住民との連携協力の状況」として、学校に対する保護者の意見・要望等の状況、学校と保護者・地域社会等との連携協力の状況。</p> <p>大項目5「その他」</p> <p>上記の報告の中で、各項目について細部にわたり分析され、意見が記されていた。昨年度の甲斐市の学校評価研究校に指定されたことやPTA全国表彰を受けたことなどから、学校が積極的に学校改善に取り組んでいる姿勢や各種のたよりで学校の情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりに努めていること、学校評価結果も信頼される学校づくりに生かしていることなどの多くの評価を受けた。</p> <p>報告書の最後に、現在、教職員の努力の成果もあり、さらに特色ある学校づくりにも取り組みを始めているといえる。フットサル大会が盛り上がったことは、その象徴である。今は、学級経営の充実を図ることに重点が置かれているが、学級経営の充実が学年経営の充実に、そして学校経営の充実にと、個々の学級での個業的な努力が学校全体の特色ある学校づくりにつながっていくことで、さらなる充実した学校経営が楽しみな学校になる。伝統のある学校であり、新しい住民も入って、潜在的な力をもった学校であると、まとめられている。</p>		